

# としょぶらり

米子高専図書館情報センター報

ISSN 1344-5634

第 84 号

平成19年12月3日発行  
米子工業高等専門学校  
図書館情報センター

## 読書エッセイコンクール講評

図書館情報センター長 永井 猛

今回の応募総数は229編、うち読書感想文は169編、エッセイは60編でした。今年の特徴としては、数の少ないエッセイのほうに読みごたえのある作品が多かったことです。読書感想文はあらすじの紹介で終わっているものが多々見られました。そんな中で、入賞した作品はさすがと思わせるすぐれた読み取りをしています。

読書感想文の最優秀賞の『「だから、あなたも生きぬいて」を読んで』は、「どんな逆境でも生きぬいて」という原作のメッセージをしっかりと受け止め、自分の感動を素直に綴っている点に好感が持てます。優秀賞の「笑顔で生きんしゃい！」は主人公「がばいばあちゃん」の魅力、「『世界がもし100人の村だったら』を読んで」は世界規模で自分を見直す驚きがうまく表現されていました。

佳作の「リアル鬼ごっこ」は不条理な恐怖、「古事記」は太古の世界への興味、「手紙」は不当な差別、「『ゼロ弾きのゴーシュ』を読んで」は精神的な成長の大切さが綴られ、それぞれ好評でした。

エッセイの最優秀賞「輝くために」は、目標を持って努力する大切さが力強く描かれており、この真摯さはすばらしいと思います。優秀賞の「スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？」は調子の良い繰り返しのリズム、また、「彼女の特等席」は猫のいる日常風景の持つ暖かさが得難い魅力となっています。

佳作の「地球温暖化について」の温暖化防止策、「一味違う目線から」の鬼太郎の着ぐるみの中から見えた世界、「感動との出会い」の美術作品との幸せな出会い、「猫宴日和」の夢のような別世界でのひとごころ、「人とひと」の出会いの不思議さ、各作品が独自の視点、感覚で記され、読みごたえのある作品となっています。

このコンクールを通して、一人でも多くの人に良い本と出会い、また、日頃感じていることを文章にすることで、自分のこころを見つめ直し、豊かにしていただけたらと思います。

本年も多数のご応募、ありがとうございました。

## 目次

### 平成19年度 第34回 校内読書・エッセイコンクール優秀作品発表

#### <読書感想文の部>

最優秀賞	物質工学科1年	山田 千寿	「だから、あなたも生きぬいて」を読んで…………… 2
優 秀 賞	電子制御工学科1年	影山 大介	笑顔で生きんしゃい！ …………… 2
優 秀 賞	建築学科1年	津田 誠人	「世界がもし100人の村だったら」を読んで …… 3
佳 作	物質工学科1年	村尾 彰郁	リアル鬼ごっこ …………… 4
佳 作	建築学科1年	門脇明日和	古事記～古代の神の姿を思う …………… 5
佳 作	建築学科1年	塚田 紗弓	手紙 …………… 6
佳 作	建築学科5年	松本慶太郎	「ゼロ弾きのゴーシュ」を読んで…………… 6

#### <エッセイの部>

最優秀賞	建築学科2年	渡瀬 茜	輝くために …………… 7
優 秀 賞	電子制御工学科1年	西川 尚貴	スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？ …………… 8
優 秀 賞	建築学科1年	表 美咲	彼女の特等席 …………… 9
佳 作	電子制御工学科1年	山根 祥平	地球温暖化について …………… 9
佳 作	物質工学科1年	藤田知佐子	一味違う目線から …………… 10
佳 作	建築学科4年	山本 麻実	感動との出会い …………… 11
佳 作	(匿名希望)	炬燵猫みかん	猫宴日和 …………… 12
佳 作	(匿名希望)	ウォルト・ディズニ	人とひと …………… 13

新着図書紹介・ブックハンティング貸出ランキング・図書館のパソコンを使おう！…………… 14

# 読 書 感 想 文 の 部

## 最優秀賞

### 「だから、あなたも生きぬいて」 を読んで

物質工学科1年 山田 千寿

私がこの本を選んだ理由は、この本の著者の経歴にとっても興味を持ったからです。

著者の大平さんは中学二年生の時にいじめにあい、割腹自殺をはかりました。私は、いじめていた人達に今までの苦しみを思い知らせるために自分を刺して死のうとした人がいたという事を知り、とても衝撃的だったし、とても悲しい事だと思いました。きっと私がいじめにあって死ぬほど辛い思いをしたとしても、割腹自殺なんて怖くて出来ないと思います。それほど大平さんはいじめていた人達を恨んでいたのだと思うと、改めていじめは絶対にしてはいけない事だと思いました。

大平さんはその後自暴自棄になり非行を繰り返して、十六歳で暴力団組長の妻になりました。私は今までいじめられていた人達が非行に走ってしまう理由がよく分かりませんでした。でもこの本を読んで、非行を繰り返している人達の中には、たくさんの悩みがあって立ち直りたいと思っている人もいるという事を初めて知りました。大平さんの本に書かれていた「居場所が欲しかった。」という文章がすごく印象に残りました。非行は良いことではないと分かっている人が、いきなり暴力団の世界に入ってまで居場所が欲しかったなんて今の私には想像がつかない程、当時の大平さんは毎日がとても辛かったと思います。でも、いくら非行に走っても最後に一番後悔するのは自分だと思うので、やっぱり非行はいけない事だと思いました。

その後大平さんは養父と出会い立ち直る決意をし、猛勉強の末、司法試験に一発合格しました。私はこの部分にとっても驚きました。中卒の人が司法試験に一発で合格するなんて信じられなかったし、人がやる気次第でここまで変わる事が出来るという事にすごく感動しました。私は今まで無理だと決めつけて、途中であきらめてしまった事があるけど、それは間違いで、もっと努力しなければいけなかったと後悔しました。

私はこの本を読んですぐにあきらめてはいけな

いという事を学びました。今までの私は出来ない事があるとすぐに嫌になってしまうことがありました。でもこの本を読んで最後まであきらめてはいけないと思ったし、何でも前向きに考えなければいけないと思いました。大平さんのように辛い過去がある人は他にもたくさんいると思います。でも大平さんのように過去を断ち切って充実した今を過ごせている人はそんなにいないと思います。私はまだ、いろいろな事をたくさん経験していかないとはいけないと思うけど、そこでどんなに辛い事があっても大平さんのように真剣に向きあえるような人になりたいです。大平さんの人生はすごく波乱万丈だけど、大平さんが立ち直る事が出来たのは「立ち直りたい。」という強い気持があったからだだと思います。人は辛い時、流されてしまいたくなくとも思います。でも、そこで流されずに前向きに生きていくことで、きっと何か得るものがあると思います。逃げ出したくなる時に耐えるのは簡単ではないけど、強い気持ちや目標を持っていればきっと、乗り越えられると思います。私これから辛くなる事があっても、今持っている気持ちを忘れずに乗り越えていきたいです。そして、いつでも前向きに考えられるような強い人になりたいです。

## 優秀賞

### 笑顔で生きんしゃい!

電子制御工学科1年 影山 大介

私はこの『がばいばあちゃんの笑顔で生きんしゃい!』という本を読んで、がばいばあちゃんの生き方、考え方に感動を覚えました。これからこのがばいばあちゃんのがばいエピソードを読んで感じたことを話していきたいと思います。

がばい、という言葉はあまり聞き慣れない言葉ですが、これは佐賀の方言ですごい、という意味です。つまり、がばいばあちゃん、というのはすごいばあちゃん、ということです。佐賀の方言を話す通り、このがばいばあちゃんは佐賀生まれで、この話も佐賀が舞台です。このがばいばあちゃんの物語は、この本の著者、島田洋七さんが八歳の時、広島から、佐賀のばあちゃんの家に預けられたことが始まりです。八歳なんて、まだ小さな時に、親元を離れて暮らすのはとても心細かったろうな、と感じました。ですが、この不安や心細さがとても楽しいものへと変っていくとは、予想していませんでした。

がばいばあちゃんはとても裕福といえる家庭ではありませんでした。ですが、生きるための、生活の知恵と根性は目をみはるものがありました。ばあちゃんは、つねに前向きで数々の名言と共に著者と私に人生の楽しみ方を教えてくれました。「貧乏人が一番やれることは笑顔だ。」この名言は、誰にでもいえることですが、誰にでもいえることだからこそ、あまり見えなくなっていることかもしれません。著者は広島から佐賀に預けられた初めの頃、このことをばあちゃんに口やかましく言われていたそうです。世間一般的に見ても、笑顔であいさつされて嫌な気持ちになる人はそうそういないと思います。急に現れた新参者の筆者でも、すぐに顔を覚えてもらえたそうです。しかも、学校の帰りなどに近所のおばさんに、「こんにちは。」と笑顔であいさつすればおまんじゅうなどをもらえる嬉しい展開になることもあったそうです。まさにスマイル0円どころかスマイルでボロもうけです。現代社会では、笑顔になれる人が少なくなっているような気がします。テレビのニュースを見ても、殺人などの嫌なニュースが多くなっています。殺人をする人達は多分、本当のあたたかい笑顔を知らないのだと思います。その分筆者はがばいばあちゃんとの出会いで笑顔というコミュニケーション術をマスターしたといえます。

人に気づかれないのが本当の優しさ、本当の親切。筆者の家は貧乏だったのですが、土地柄としては当時最高級の一等地でした。県庁の近くで博物館や美術館がすぐそばにあり、何よりお金持ちの家が多かったそうです。そのせいか、余り物の果物やお菓子をたくさんもらっていたそうです。しかも、今と違い昔はまだスーパーなどはなく、小売店で売っていたので、おまけをしてもらえたのです。今ではおまけなんて滅多にありませんから、少しうらやましいです。筆者は、

「誰も口には出さなかったが、家の事情を知っていて気の毒がって物をくれたり、おまけしてくれていたというのもあったと思う。」

と書いていますが、つまりこれが本当の優しさ、本当の親切なのだと思います。そしてばあちゃんもわざわざ、これはお礼です、などと言わず、近所の家の前を掃いたり、打ち水をしたりして、さり気なく周りの人に感謝の気持ちを表していました。これは一種の社交辞令であり、当然といえば当然かもしれませんが、最近はそのどころか隣に住んでいる人が誰かもわからない、という人も増えてきています。少しはばあちゃん流を見習って親近感を持って欲しいと思いました。

「世間に見栄はるから死ぬ。うちはうちでよか。」ばあちゃんは、新聞で自殺の記事を見ると、「ぜいたくもん！」と怒っていたそうです。世間さえ気にしなければ自殺する人なんかいなくなるのだと言うのです。ここ最近、不手際や会社の失敗で自殺する人をテレビや新聞等で見かけます。なぜ自殺するのでしょうか。それは、世間体が悪くなるから、だから自殺。それは確実な間違いです。ばあちゃんの言葉に、

「裸で生まれてきたという意味をわかっていない。」

というのがあります。人間、生まれてきた時は何も持っていません。だから、事業に失敗しようが家を失おうが元に戻っただけのことで、命さえあれば何度でもやり直せるのです。

最後に私が一番がばい、と思った名言を紹介します。

「生きていることが面白い。なりふりかまうより、工夫してみろ。」

一度しかない人生、生きることを楽しんでいこうと思います。がばいばあちゃん、ありがとう。

## 「世界がもし、100人の村だったら」 を読んで

建築学科1年 津田 誠人

僕はこの本を読んでたくさんのことを考えた。

日本人が豊かで恵まれている、ということはたくさんの方が知っていることだと思う。普段の生活でそれを意識することはあまりないけれどニュースなどで食べものがなくて苦しむ人や、病気で苦しむ人、戦争で命が危険にさらされている人などをよく見る。僕も漠然と、自分は幸せだな、と思っていた。しかし、実際に貧しい人がどれくらいいるのか、飢えや病気に苦しむ人がどれくらいなのかということは分かっていない。この本はそんなことが分かりやすく書いてある本だった。

百人のうち五十二人が女性、四十八人が男性……これからはじまっていろいろな数字が示されていく。驚いたのは、百人のうち十人が同性愛者ということだ。百人に十人ということは四十人に四人、つまり自分のクラスに四人同性愛者がいるということになる。僕は同性愛者に対して気持ち悪いとか思っていたがもっとよく考えていかなければならないと思った。

また大学に行っているのが一人というのも意外だ。僕はこれから大学に行きたいと思っているけど、それが特別なことであると心に留めておかな

ければいけない。百人のうち十人が栄養不足で一人は死にそうだが十五人は太りすぎ。富を六人が五十パーセントを占めて、二パーセントを二十人が分け合っている。コンピューターを持っているのは二人、しかし十四人は文字が読めない。

日本は、自分は、本当に恵まれているなど改めて気付かされる数字が並ぶ。僕はたくさんの人を苦しめてとても幸せな生活をしている。命が危険にさらされないということの貴重さを深く感じる。

きっとこの本が有名になったのも、読んだ人がみんな「自分はなんて幸せなんだろう」と感じたからだと思う。分かっているでも実際数字を見るとショックを受ける。そして、日本に生れてよかったか思いながら一円や十円を募金するんだろう。自分もそう思った。自分はすごく幸せでわがままだと思う。何かしないといけないという気持ちにはなる。しかし、この本にきれいごとというか何か違う意味があるような気がした。世界には学校に行けない人がたくさんいる。だから学校に行け。食べられない人がいっぱいいる。だから残すな。この本は元々は学校の先生のメールだっていうけど、何となく先生らしい無言のメッセージだと思う。

雑誌などの感想欄でも、この本を読んで、「自分は幸せだ」とかいう感想がたくさんあるけど、それって何かおかしいと思う。日本に生れて良かった。自分より不幸な人がいっぱいいるんだなあ。可哀想……。そういう安心感を与えるための本になっているのかもしれない。自分が幸せだとみんな思いたいんだと思う。だとしたら、この本は何を伝えたかったんだろう。

この本を読んでも、「たとえあなたが、傷ついても傷ついたことのないように愛する」ことは、自分にはできないと思う。傷ついたら自分を傷つけた人を憎む。それは平和だからか、わがままだからか。飢餓で苦しむ人がいても、食べ物を残す自分がいる。

「もしもたくさんわたしたちがこの村を愛することを知ったならまだ間に合います。人々をひきさしている非道な力からこの村を救えます。きっと……。」本はそう書かれておわっている。しかし、僕には飢えに苦しむ子供達をどうやって助ければいいのか分からない。せいぜい募金をするくらいだと思う。何もできない。この村を愛せば非道な力から人々を救えるのだろうか。自分が世界を救えるのか。自分は無理ではないかと思う。僕はとりあえず今何が問題で人々が苦しむことになっているのか、それを知ることからはじめよう

と思う。自分なりの答えがでるまで考え続けようと思う。みんなが考えたら、もしかしたら世界は変わるかもしれない。

佳作

## リアル鬼ごっこ

物質工学科1年 村尾 彰郁

鬼に捕まってしまうと殺される…。そんな残酷な「鬼ごっこ」が世の中に存在する訳がない。そう分かっているでもついつい考えてしまう。もし僕が唐突に「リアル鬼ごっこ」に巻き込まれてしまったら、漆黒の鬼達から逃げ切ることができるだろうか。迫り来る死の恐怖に打ち勝つことができるだろうか。僕が読んだ本は、そんな状況に折り込まれてしまったある大学生の物語です。

この本の著者、山田悠介さんは映画にもなった「親指さがし」など、若い世代に支持を受けるホラー作家です。そしてそんな著者の名前が有名になったきっかけがデビュー作の「リアル鬼ごっこ」です。

西暦三千年、ある国の王様の自己中心的な気まぐれで佐藤姓を持つ人間五百万人すべてを抹殺せよという命令がくだされます。その方法は、七日間毎夜一時間行なわれる「鬼ごっこ」でした。鬼に追われるのは佐藤さんたちであり、捕まれば虐殺されるというものでした。有望な陸上選手である主人公佐藤翼は、この馬鹿げたゲームから必ず生還しようと決意する。父親の暴力によって幼い頃に生き別れになった母と妹の愛に再会するため……。

この「リアル鬼ごっこ」で僕が特に注目したことは三つあります。一つ目は冒頭でも述べたとおり、突然鬼ごっこという名の非日常に直面することです。最初読み始めたときはリアリティーのない死のゲームに感情移入することができませんでした。しかし読み進めていくうちにあることに気付いていく。それは命を賭けての鬼ごっこは何も特別なものじゃないんじゃないかということ。考えてみれば自分たちが生きている現実の世界も不条理な物事で溢れている。大した理由もなくイジメの対象にされたり、人生をささげてきた会社にあっさりと切り捨てられたり、宗教心から自分の命を懸けてハイジャックする青年がいたり、磐石だと思い込んでいた日常は、ある日突然ひっくりかえる。僕達の生きるこの世界でも容易に不条理な状況に立たされるのです。

そして二つ目に注目したことは、そのような不条理な状況で見える、人と人の絆です。「リアル鬼ごっこ」が始まってから、主人公の佐藤翼は様々な人と出会います。「リアル鬼ごっこ」により死んでしまった父親の会社の同僚、中学校のときにできた初めての友達との再会、そして十四年ぶりに対面した妹。懐かしい人や新たに出会った人とコミュニケーションを重ねるたびに一週間逃げきり大切な人と幸せに生きていたいという思いを強くします。しかし運命は残酷で次々とその大切な人達は鬼につかまってしまいます。ただ一人残った翼はもはや逃げる気力を失ってしまいましたが、なぜか翼の足は止まりません。そしてこれが三つ目に注目したことです。極限状態に陥った翼を動かすのは単純な死の恐怖でした。興味深いことに妹と会うまでの生きる目的があったときよりすべてをなくしたあとの方が、逃げるスピードが速くなっています。命よりも大切なものでさえ足枷になってしまうという生々しいものが感じられました。

「リアル鬼ごっこ」を読んで考えたことはいくつもあります。そのなかでも特に印象に残っているのは、もし自分が「リアル鬼ごっこ」のようなゲームに参加しなければならなくなったことのことです。そのとき僕は正気を保つことができるのでしょうか。気力のかぎり逃げることができるのでしょうか。万が一の事態に直面してしまったためだけにできるだけ対応できるように日頃から日常生活のいたるところで危機感をもって暮らしていきたいです。

## 古事記～古代の神の姿を思う

建築学科1年 門脇明日和

自分は、いったいどこから来たのだろうか。私はそんなことを考えてみたことがある。最近ならばきちんと教育がされているので、男の精子と女の卵子が合体して、受精卵になって……。などというように科学的な説明が一般的になっている。しかし、それだったら一番最初の人間はどうかやって生れたのか。私は、そういった人間や動物が生れる以前の、はかり知れない世界にとっても興味を持っていた。

その昔、日本には神がいた。世界のあらゆるものは神の手によって創られ、それらにはまた神が宿っていた。それは目に見えるものではなかったが、昔の人はそう信じていた。

古事記は、現代のようにメディアも何も無かつ

た時代から言い伝えられ編集され、今日でも読むことができるとても古い神話だ。

そして、一番初めに生まれた天之御中主神あめのみなかぬしのから、推古天皇や天武天皇といった歴史に名を残す人物までの系図を記した、歴史書でもあると言えなくもない。

しかし所詮は神話で、よく読んでみると現実ではとてもありえないことが書かれている。ほとんどが作り話と分かっているながら、私はこの神話はとても興味深いものだと思った。

私の住む町に、比婆山という小さな山がある。この山には神話が言い伝えられている。国造りである有名なイザナミノ神が死んだ後、夫のイザナギノ神がこの山に遺体を埋葬したというのだ。そしてイザナミノ神は、比婆山の頂上にある神社に安産の神としてまつられている。

このように、作り話のはずの古事記の舞台になったと言われる場所は全国各地にたくさんある。これはとても面白いことである。さらに、地方によっては「神事」によって古事記のような神話を伝えていく所もある。

鳥根県の石見地方では伝統芸能の石見神楽によって古代の神の姿を伝えている。中でも古事記の中の須佐之男命の八岐大蛇退治の話に基づく演目、「大蛇」は壮大なものだ。

人はなぜ神がいるのだと信じたのだろうか。それはたぶん、自分の力では叶いそうも無い願いがあったからだと思う。昔の人が雨ごいをしたり豊作を願ったりしたのは、どうなるかわからないから神に祈って、少しでも安心したかったからではないだろうか。たとえ神がいなかったとしても、自分の心の中に神の姿を思い描いて、その神がきっと願いを叶えてくれると思ったのだと思う。

古事記に出て来るたくさんの尊い神々は、そういった人の願いから生まれたものだと私は思う。きっとこの神々が願いを叶えてくれるのだと。

現代では、目に見えるものしか信じられず神話なんてばかばかしい、と思う人も少なくないかもしれない。確かに、目に見えないのだから神はいないかもしれない。しかし願いが叶ったときや嬉しいとき、神はすぐそこにいるかもしれない。

神の姿はとてもあいまいなものだけれど、私は神はいるのだと信じたい。何かを強く願うとき、神を信じるその心の中に神がいるのだと思う。そしてときどき、ささやかな幸せを与えてくれるのかも。

## 手紙

建築学科1年 塚田 紗弓

「差別はあってはいけない。」「差別はしてはいけない。」当たり前的事だと皆は言うかもしれない。だが、私は東野圭吾の「手紙」を読んで、差別についてもっと深く考えさせられた。

弟の学費欲しさに強盗殺人を犯してしまった兄。「殺人犯の弟」というレッテルを貼られ、差別を受けながらも必死に生きていく弟。これはその弟の立場から描いた作品である。

「犯罪者の弟」というだけで、何の罪もない弟が差別をうけるのはおかしい。小学校などならそう言われるであろう。だがもしも自分が被害者の家族だったら・・・そう考えると私も、加害者はもちろん加害者の家族も許せないかもしれない。

一方、もしも自分が主人公だったらどうだろう。「なぜ何の罪もない自分が差別をうけなければならないのか。」そんな事を思うだろう。周りの人達にこんな感情を抱くのは筋違いかもしれないが、きっとそんな憤りをおぼえると思う。そして被害者の家族に申し訳なく思い、兄を恨むであろう。

ニュースなどでも、大きく報道されるのは被害者のコメントなどではないだろうか。私もそれを見て被害者に同情するし、もしも自分が、家族が被害にあったらどうしよう、と被害者の立場から考えることが多い。

加害者や加害者の家族の方はどうかといえば、多くの方はあまり関わりたくないと感じるだろう。差別を肯定するわけではないが、それが現実なのではないだろうか。

これは本の帯にも書いてある、主人公の就職した会社の社長の言葉である。「差別はね、当然なんだよ。犯罪者やそれに近い人間を排除するのはしごくまっとうな行為なんだ。我々は君のことを差別しなきゃならないんだ。自分が罪を犯せば家族をも苦しめることになる—すべての犯罪者にそう思い知らせるためにもね。」非常に重い言葉である。差別をしたくはないが、しなければならないのだろうか。考えさせられる言葉だと思う。

結局最後に主人公は、妻や子どもたちのために、兄との縁をきることになる。実の兄弟と縁をきるのは、どれほどつらいことだろうか。それが正しい選択だったのかどうかはわからない。もしも自分が主人公の立場であったらどうしていただろうか……？

差別や偏見のない世の中は理想的である。だが

この作品を読んで、それもきれい事ではないのだろうか？そんなことを考えさせられた。きれい事だけでは、今の世の中を生きていくことは難しいだろう。だからといって、私には「差別は当然だ」と言いきることもできない。口では差別はだめだと言いたい。だがこの作品をよんで、心の底からそれが言えるだろうか？

私たちはこれからもっと、差別や偏見、そして犯罪について、深く考えなければいけないと思う。

## 「セロ弾きのゴーシュ」を読んで

建築学科5年 松本慶太郎

「セロ弾きのゴーシュ」という作品は、今回、初めて読んでみたのですが、宮沢賢治独特の幻想的な世界観の中に、現代の若者、生きる理由、目標を見出せない、自分達にとっても近い存在を見つけることが出来ます。

努力をしているのに、むくわれない、いい結果を残すことが出来ない、そんなゴーシュの姿を思い浮かべながら、この話を読み続けていると、気づかないうちに、ゴーシュに、自分自身の姿を投影してしまいます。出来ない自分に感じている劣等感が序盤の文章では強く伝わってきます。落ち込みながら、家に帰ったゴーシュの風車小屋の元に突然の来訪者があります。お土産を持って訪れた猫に頼まれて、ゴーシュはセロを演奏します。猫をいじめるつもりで荒い演奏をします。上手く生きれない自分へのもどかしさを他人にぶつけている人間らしいワンシーンだな、と思いました。しかし、ゴーシュに欠けていると言われていた、音楽の中の表情が三毛猫を通して、文章から伝わってきます。眠るために、スローな曲を要求した三毛猫に、「印度の虎狩」を弾いていじめたり、高圧的な態度をとるゴーシュですが、結果として、楽長に指摘され、悩んで涙さえ流した、表現や表情というものを手に入れる事が出来ます。

次の晩、ゴーシュの家には、また、突然の客が訪れます。音楽を習いに来たかっこうにドレミファソラシドを演奏しますが、かっこうの方が、音程の正しいドレミファソラシドを歌います。初めは、おかしく感じていた、かっこうの音階が正しく聞えてくるようになります。教える立場のはずのゴーシュが、いつの間にか、かっこうに音程を教えられていました。「ぼくらはどんな意気地のないやつでも、のどから、血が出るまでは、叫ぶんですよ。」という、かっこうの音楽に対する強い意志を、ゴーシュは学んだんだと思います。

次の晩に、訪ねて来た狸に対しては、今までのゴーシュでは、考えられない位の明るい表現がたくさんできます。狸の仕草に対して、思わず吹き出してしまいそうになったり、笑い出したりしてしまっています。前者の2匹の動物達に対してとは違い、完全に、動物から教えられている事を自覚している事が、見てとれます。ねこや、かっこうに対する時は、文章からも、生きる事がうまく出来ない自分自身への葛藤、強く言えば、劣等感ともとれる態度が伝わって来ていました。しかし、子狸に欠点を指摘された際に、素直に聞き入れているゴーシュの姿が見てとれました。自分の非を認めるという事は、簡単な様でとても難しい事です。今までに出会った動物達のお陰で、ゴーシュは、音楽的にも、人間的にも、徐々に成長していきます。

人との出会いは、良い方向へも、悪い方向へも、人を大きく変えるものです。嫌だなと思っていた人の行動や、身振りや、立ち振る舞いを見る事で、自分の嫌な部分やダメな部分に気付く事があります。また、人から指摘される事で初めて自覚出来る事もあります。人間という生き物は、一人一人が、多かれ少なかれ、互いに干渉しあっていることに気付かされる場面が、この作品には多々ありました。

最後に、ゴーシュの家を訪れる、野ねずみの親子に対しては、邪険な態度を取る事も無く、すんなりと、野ねずみの願いを聞き入れるゴーシュの姿があります。病気の治療の後、パンをねずみに食べさせたりと、人間としての心の余裕が出てきた様子を感じ取ることが出来ます。

六日目の晩、大成功を収めたコンサートも終わり、ゴーシュは、楽団のメンバーから、高い評価を得ます。しかし、そんな音楽に対する名誉など関係なしに、音楽を楽しんでいるゴーシュの姿が浮かんできます。

人は、一人では生きていないし、生きていけない。成長したいと強く願っている時こそ、物事の本質を忘れていたり、気付いていなかったりするんだな、と思いました。技術の向上だけを求めている時のゴーシュと、精神的な成長を遂げたゴーシュは、とても同じ人間とは思えない程でした。前向きになれなかったりするときこそ、まわりに目をやったり、素直に生きてみる事が、とても大事なんだと、この作品を読んで気付くことができました。



## エッセイの部

### 最優秀賞

#### 輝くために

建築学科2年 渡瀬 茜

あなたは何か頑張っていますか？

もしこんな風に質問されたら私は胸を張って「頑張っています。」なんて、答えられないかもしれない。私の尊敬する人たちは、アーティストや家族、友だち、偶然出会った人など沢山いる。その人たちは何かを必死に頑張っている人たちだ。そしてその頑張りには誰かを励まし、勇気を与える。

私のある友だちは音楽や演技に力を入れている。以前彼女が主役を務めるミュージカルを観に行ったことがある。大勢いる観客の前で、堂々と歌い、主役になりきっていた。

私はそのミュージカルを観て泣きそうになった。感動した、というのももちろんある。だけど本当は、自分の頑張ることを見つけ、きらきらと輝いている友だちを見て焦りを感じた。私は何か頑張っているだろうか、何か人を感動させるものを持っているだろうか。あんな風に頑張りたい、あんな風に輝きたい。「私はこれを頑張ります。」と、胸を張れるものがほしい。

「輝きたい」、このゴールはあまりにも遠すぎた。曖昧で、辿り着けるのかもわからない。何を頑張ればいいのかわからなかった。私はすぐにやる気をなくした。

頑張りたい、輝きたい、思っただけがいつも頭の中で叫んでいた。ただただ頑張りたい。勉強だって頑張るのはテスト期間だけ、テストが終われば全て忘れる。九年間習っていたピアノだって、練習時間だけを見ればきっと一ヶ月分くらいしかないだろう。頑張りたい、そう思っているのにどうして私は頑張れないんだろう？答えは簡単だった。目標がないからだ。ゴールが曖昧すぎるからだ。テストも欠点じゃなければいい、ピアノも週一回のレッスンをこなせばいい。目標も何もなかったからだ。

私は少し前から密かに英語に興味を持っていた。他国の人と色々なことを話したら、どんなに楽しいだろう。だけど話すためには数えきれないほどの単語や文法を知る必要がある。英語を話せるようになるなんてきっと無理だ。でも話せたら……そう思っていたときに偶然、英語弁論大会の話をお願いした。正直驚いた。リスニングも苦手だし、

話すにも発音がわからない。そんな私にまさかの英語弁論大会の話が来るなんて思いもしなかった。これは神様が私に与えてくれたチャンスかもしれない。出てみたい、そう思った。だけど私なんかにはできるのかどうか、とても不安だった。あと一歩が踏み出せずにいた。

その話をいただいた次の日、私はあるミュージカルを観に行った。「ハイスクールミュージカル」という全米・全世界で人気のある作品で、今回日本人のキャストによって上演された。大晦日のパーティーで知り合ったトロイとガブリエラは、カラオケ大会で歌うことの楽しさを知り、意気投合する。新学期が始まり同じ高校に通うことになった二人は、ミュージカルのオーディションを受けようとする。しかし友だちに反対されたり、二人に対抗する姉弟が現れたり、さまざまな騒動に巻き込まれる。それでも二人は諦めず、そして最後は反対していた友だちも、二人を応援する。この物語ではそれぞれが夢を追いかけていた。舞台上の全ての人が生き生きとし、きらきらと輝いて見えた。このミュージカルでトロイ役を務めた方は、初舞台、初主演だった。不安や悩みにも負けず、上演まで必死に稽古してきたその方はとても自信に満ち、とても楽しそうだった。きらきらと輝いていた。

私は「頑張らなきゃ。」そう思った。このミュージカルに背中を押され、私は英語弁論大会に出ることを決意した。まだ不安は沢山ある。だけどやってみなくてはわからない。どんな結果だろうと、一生懸命に頑張った経験は、私の自信に変わるだろう。「頑張りたい」ただ思っていただけの自分から、本当に「頑張る」自分になりたい。不安に押しつぶされそうになったり、壁におち当たったりしたときは、私の尊敬する人たちを思い出す。誰もが努力なしに輝いているわけではない。努力しているから輝いているのだ。

私は今少し、頑張っている。色々なことに挑戦している。落ち込むこともある。だけど目標がある生活はとても充実している。私はいつか胸を張って言うだろう。

「頑張っています。」と。

## 優秀賞

### スイッチ、スイッチ、 なんのスイッチ？

電子制御工学科1年 西川 尚貴

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

それはね、人の心にあるんだよ。姿、形は無いけれど、心にちゃ〜んとあるんだよ。

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

友達と喧嘩してしまって、後から考えたら自分が悪かったことに気付いたんだ。だから、思いきって、友達に謝ったんだ。これってどんなスイッチかな？

それはね、勇気のスイッチだよ。友達に謝ることは、とても勇気のいること。そして、自分の悪いところを自分自身で認めることも大切だね。これからは、友達と喧嘩する前に気付くように努力しよう。

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

テスト勉強を、テストの二週間前から始めて、その間、テレビやゲームをやめようと思うんだ。これはどんなスイッチになるの？

それはね、継続のスイッチだよ。テスト勉強を二週間続けてやるということはとても良いこと。しかし、休憩を取ることを忘れないで。体を休めることは、だらけているのと違うんだ。次に勉強をするときの集中力を養っているんだ。しかし、休憩があまりに長すぎると、勉強する気力が無くなるぞ。

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

横断歩道で、いつまでも青にならないと困っていたお婆さんがいたから、横断歩道のスイッチの事を教えてあげたんだ。そしたら、すぐ青になったから、そのお婆さんに、とても感謝されたんだ。これってどんなスイッチなの？

それはね、思いやりのスイッチだよ。お婆さんのためを思ってしたことは、すごく良いことだね。それと、ただ、お婆さんの代わりにボタンを押してあげたんじゃなくて、ボタンの存在を教えてあげたことが良かったな。

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

最近、太ってきたからダイエットしようと思うんだ。食べる量とか少なくて、運動すればまた、もとの体形に戻れるのかな。これはどんなスイッチなの？

それはね、我慢のスイッチだよ。そのスイッチがオンになると、我慢して、ある目的を達成させようとするんだ。だけどダイエットって、無理にすると、脳が縮むんだ。そして、正常な判断ができなくなったりするんだ。だから、ダイエットは、あまりお勧めしないな。

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

前に失敗したことや、経験したことを考えると、次の一歩を踏み出すことが怖いんだ。これは、どんなスイッチ？

それはね、経験のスイッチだよ。そのスイッチ



は、過去にあった自分の経験を見つめ直すことができるんだ。それは、誰もが一度は経験することなんだ。失敗を恐れてはいけない。あなたには、あなただけの個性がある。負けないで、あなた自身に負けないで。そして、今ある自分が、好きになれるように、心を強く、広く持とう。

スイッチ、スイッチ、なんのスイッチ？

それは、心と繋がる人の様々な感情、動作のスイッチだよ。

## 彼女の特等席

建築学科1年 表 美咲

抜群の運動神経、優雅な身のこなし、ちょっと神経質な眼差し。色白な彼女の年齢はおよそ三十四、五才といったところか。しかしそれは人間の年齢に換算すればの話だ。

彼女の名はレオ。女の子なのに何故か、真っ白なオスライオンの名前を想像させる。それには色々と訳があるのだ。

レオが我が家にやって来たのは五年前の春。雪も解け、アスファルトが顔を出し始めたまだ肌寒い頃だった。——忘れもしない、四月十二日。あの日は確か、地元のお祭りの日だったように思う。近所の人に住みついた野良猫が子供を産み、処分するというのだ。その話を聞いた私は、母に飼いたいと頼み込んだ。生後二、三日ほどで、目すら開いていない子猫を見て、誰が助かると思うであろうか。しかし彼女はよほど強運の持ち主なのか、希望は二割程度しか持てないという人工保育に成功し、無事に成長したのだ。勿論、すべてが順調だった訳ではない。便がつまって病気になったり、眼に膿が溜まり、切開する手術をしたりと、随分心配をかけられたものだ。

ある日、度々お世話になった動物病院の獣医に子猫の性別を訊いた。獣医は間違いなくオスだと断言したのだ。真実を知る由もない私たちは疑うはずもなく、勇ましく育てて欲しいという願いから、彼を「レオ」と名付けたのだ。

レオが彼女だと解ったのは名前もすっかり馴染んだ二ヵ月後の事だった。

そんなレオは母親を知らない。代わりに猫用の哺乳びんと市販の猫ミルクで育った。母親を知らないはずなのに、時々毛布やタオルの端っこをチュウチュウと吸っている。初めは何をしているのか不思議に思ったが、どうやらおっぱいを飲む真似ごとをしているらしい。誰かに教わった訳でもないのに、私は少しだけ、神秘的なものを感じた。あまりに真剣な表情でやっているの、思わ

ず吹き出してしまう時もある。

その反面、人間に育てられたせいもあってか、自分を猫だと自覚していないのではないかと思うことがある。子猫時代に母親や兄弟たちとけんかしたり怒られたりと、普通なら当たり前のことを経験していないからだ。

そのせいか、我が家の二匹の先住猫たちと微妙に折り合いが悪いのだ。

レオは好きな食べ物も変わっている。トマトやきゅうりが大好物で、匂いがするとすぐに寄って来る。この間なんか、青汁の入ったコップに頭をつっこんで美味しそうに飲んでいて。青汁を飲むなんてやっぱり人間みたいだ。

そんなレオも気がつくともう五才。平均寿命からすると猫人生の三分の一を終えた事になる。掌にのるほど小さかったレオ。真っ白でふわふわの綿菓子みたいだったレオ。お腹に触らせてくれないくせして、寒い日は甘えて布団に潜り込んでくるレオ。床でバリバリと爪を研ぎ、壁のクロスもボロボロだけど、その丸い瞳に見つめられると全部許してしまうのだ。

彼女は我が家に来て幸せなのだろうか。猫は物を言わない。機会があるのなら、是非訊いてみたいものだ。生まれてから生涯一度も土を踏むこと無く、家の中だけで過ごす生活だけど、少しでも幸せだと思ってくれているのならそれでいい。

今日もレオは、彼女の特等席、ピアノのイスの上で眠っている。彼女の寝顔は、よほど良い夢でも見ているのか、笑っているようにさえ見えた。そんな、いつもの見慣れた日常の風景が、いつまでも続いてゆくことを私は願った。

佳作

## 地球温暖化について

電子制御工学科1年 山根 祥平

ここ最近、僕の生活というより世界中で、「地球温暖化」という言葉がすごく話題になっている。テレビでは、政治家達が、「地球温暖化をどうしても止めなければいけない。それにはどうすれば……。」などと討論しているが、僕からすれば、エアコンがガンガンにきいている部屋でそんなに進展のないケンカのような話し合いをしていても、どんどん地球温暖化は進んで行っているという話だ。

そういう自分は何か地球温暖化に歯止めをかけるなにかをしているのか、と自分自身に問いかけると実際特にやっていない。最近始めた事といえ

ば、コンビニで極力レジ袋をもらわない事ぐらいだ。まず実家は元々エアコンを使わない。というかエアコンが2階の小さな部屋に一台しかないのでみんながいる居間では扇風機を使っている。それに夕方になると庭に水を撒くということもしている。昔からやってきたことなのだが、米子の友達に聞いてもやっている人はほとんどいなかった。なのでうちはまだ涼む方法を知っているから他の人より得をしていると思う。

しかし世界ではどんどん温暖化が進んでいる。あの一九九七年十二月十一日に京都市の国立京都国際会館で行われた、「地球温暖化防止京都会議」で議決された、「京都議定書」は世界の今の現状を見ると僕はあれはそこまで地球温暖化を止める「特効薬」となったのだろうか、署名をしていない国、署名しかしていない国を見ると、発展途上国などや先進国、特にアメリカなどが見られる。一番環境汚染している国が参加していないことに驚いた。その国も協力して温室効果ガスを減らしていかないと本当に温暖化は進んで行く一方だと思う。

日本の、ハイブリットカーは世界でもトップクラスにおけるランクだと思う。その点から見たら日本は世界よりも地球温暖化対策が進んでいると思う。しかしスーパーなどを見ると、こんなに包装しても必要ないだろ！というものがあると思う。特に思うものが「豆腐」だ。家でも僕の自宅はそうだが、パックに入れずに鍋やタッパーに入れてもらって買って来るということをしている。するとゴミは全くでないので環境にも、財布にも優しいといえる。だからまず無駄な包装を取り除けば、商品のコストも低くなり、ゴミも出なくなり、ゴミ処理が少なくてすみ、温室効果ガスが減るのではないかと思う。全国でこれを実施すればすごい量のゴミが減ると思う。それに僕もよくやってしまうのが衝動買いをやめるとゴミは減ると思う。よくあるのがその時の気分で買ってしまって、後々考えてみるといらなかったという事がよくあると思ったからだ。だから、何か物を買うときでもよく選び、少し壊れたくらいなら捨てずに修理してまた使うなどして、ゴミをなるべく出さないようにすればかなりの量が減ると思う。

電気も、昼など明るい部屋では電気をつけず、テレビを見ていないときは消すと、コンセントを抜いておくなどして、無駄な電力を使わないようにしたらいいと思う。今はまだ、火力・水力・原子力発電に頼っているけど、風力・太陽光・波力発電などの自然エネルギーが多くなってれば地球温暖化の原因になるものがさらに減るのではないかと思う。

このままだと地球温暖化でいろんな事がおこると何十年も前からわかっていたのに、何で知らんぷりしていたのかなと思う。人間の自分の利益ばかり追求した結果だと思う。正直、今さら考えたってしょうがないかもしれない。しかし、少しでも地球温暖化のスピードがゆるむといいと思う。しかしこうして生活している間にも地球温暖化は容赦なく進んで行き、氷が溶け、空気が汚され、オゾン層が破壊されている。自分一人一人が、自分に関係ないと思わず身近な問題として考えなければならぬと思う。決して大きな事をしなくても、小さな事からやっていきたいと思う。

## 一味違う目線から

物質工学科1年 藤田知佐子

私は今年の夏休み、生まれて初めてアルバイトを経験しました。そのアルバイトというのが、夏休みの間の夕方、皆生の海岸で地元の子供や近くの旅館に泊まりにきた子供たちを対象にした「皆生ちびっ子広場」という企画のものなのです。「皆生ちびっ子広場」では海の家の一部を使い、大抽選会や、当てくじ、紙芝居、打ち上げ花火などのイベントが行われます。そして私は、ちびっ子広場にやってきた鬼太郎として着ぐるみを被って子供たちとふれあうのです。鬼太郎というのは、境港出身の漫画家、水木しげるさんの漫画「ゲゲゲの鬼太郎」の主人公ですが、もう一人同漫画の妖怪ねずみ男もやってきます。仕事は二人一組で行い、子供たちと握手をしたり、一緒に写真を撮ったりします。なのでアルバイトの責任者の方から事前に、鬼太郎らしい動きができるように、ある程度鬼太郎の動きを研究しておいてくれ、と言われていました。私は鬼太郎のアニメを見ながら、初めてのアルバイトに不安ながらもわくわくした気持ちでいました。

アルバイト初日、少し緊張しながらちびっ子広場に向かい、準備をしている方々にあいさつをしました。ちびっ子広場は、地元の大人たちによって運営されているので私とは顔見知りの方もいるのですが皆さん温かくあいさつを返してくださいます。少し気分も軽くなり私も準備を手伝い始めました。そこに一人の外国人の方がやってきてまわりの方々と親しそうに話をされていました。その人は一緒にアルバイトをするネパール人のロクさんでした。ロクさんはとても親切な方で、初対面の私にも気さくに話しかけて下さり、私の不安はほとんどなくなってしまいました。着ぐるみに着がえる間、ロクさんと少しお話をしたのですが、

やはり着ぐるみにちょっかいを出してくる人もいるということで、また少し不安になりました。しばらくすると、だんだんとお客さんがやってき始めました。いよいよ初仕事が始まります。

着ぐるみを被ると視野はすごく狭くなり、外の暗さもあって周りがすごく見えにくくなります。初めての感覚にとまどいながら、お客さんにぶつからないように気をつけながら、ぎこちない足取りで進んでいきます。その時「わあっ！鬼太郎だ!!」子供たちの歓声が聞こえてきました。そう、私はもう鬼太郎なんだ！それからは鬼太郎らしくすることと、なるべくお客さんが楽しめるようにということを生懸命考えながら、必死に働いていました。「鬼太郎、鬼太郎こっち向いて」などと言われるとうれしくなり、初日はすごく楽しく終えることができました。

しかし、だんだん仕事に慣れてくるにつれ、この仕事の大変さもいやという程実感しました。まず、とにかく暑いということ。着ぐるみの中は蒸してそれだけでも体力を消耗します。一緒に働いているロクさんも、もう一人のバイトの人もこの暑さには毎度悩まされていました。そして、マナーの悪いお客さんがいるということです。暑さは何とか対処できるのですが、こういうお客さんの嫌がらせには耐えるしかありません。普段、普通の私でいるときには絶対いわれないことなどもありすごく腹が立つこともありました。ですがこれは仕事でちゃんとお金をもらっているという責任感もありとにかく耐えていました。そんな中、お客さんたちのうれしそうなお顔や、「ありがとう。」という言葉を本当にうれしく感じました。

それから、疲れで風邪をひくことや、石につまづいてよろけてしまうなどのハプニングもありましたが、無事仕事を終えることができました。子供たちにけられたり、大人にからかわれたり、辛いこともありましたが、普段とはちょっと違う目線のこの仕事はとてもいい経験でした。来年もまたこの仕事をがんばりたいと思いました。

## 感動との出会い

建築学科4年 山本 麻実

その瞬間、心臓が高鳴り、鳥肌が立った。私は心の底からの深い感動を受けていた。その作品に目を奪われ、その場に立ち尽くしていた。

これは、私がルイス・C・ティファニー庭園美術館で、ある作品を見た瞬間のことである。暗い展示室からエスカレーターを上っていくと、長い長いトンネルを抜ける瞬間のように、明るい光が

見えてきた。それは、ただの光ではなかった。色とりどりの花が咲き乱れるかのような、ティファニーが作り出した芸術の光だった。そこにあったのは、スタンドグラスで作られた、巨大な窓の作品だった。この作品を見た瞬間、私の中で深い感動が湧き上がり、私はしばらくその作品から目が離せないでいた。

私は春休みに、ルイス・C・ティファニー庭園美術館へ行った。道路沿いにある門から一步館内に入ると、一瞬にして別世界にやって来たかのような気分になった。そこには、美しい花の広場が広がっていたのだ。視界に広がる噴水、きれいな花々、繊細な彫刻……。英国を思わせるようなこの光景に、私の気分はどんどん高まっていった。

私はこれまで、ティファニーといえばジュエリーというイメージしかなかった。しかし、この展示を見ると、絵画、家具、窓、シャンデリア、ランプなどさまざまな芸術分野の作品が溢れていた。実に二百以上もの作品が展示されていた。そのティファニーのどの作品にも共通する特徴は、とても繊細で美しい仕上がりだということだと思った。

その数多くの作品の中で、最も私の心に残っているものが冒頭で述べた巨大な窓の作品である。それは、見上げる程の巨大な窓に作られた作品であった。色とりどりのスタンドグラスを用いて表現されていた。ピンクと紫の花々が周りを覆い、その向こう側には、美しい青空が広がっていた。そして、そこに描かれているもの全ての色使いに、とても細かいこだわりがあるようだった。一つの小さな領域であっても、その色には曖昧な変化が付けてあり、全く同じ色というのは一つも使われていないように感じた。その作品をよく見ると、色を付けたガラスを何層も重ね合わせることによって、明暗やグラデーションを表現していた。この作品を作るまでに一体どれほどの時間がかかったのだろうか？

自分の作りたいものを根気強く追求し続けること。それは理想である。私も建築の設計課題や模写などの作品に取り組む時には、理想とする目標がある。しかし、実際に作品を作り始めると、それを実現することは結構難しい。ある程度の所で妥協してしまう自分がある。作品提出の締め切りが迫っていたり、疲れていたりと、ある程度の所で満足してしまう。私はこの美術館の作品を見て、数々の繊細な作品を最後まで作り上げてしまうティファニーは、本当に尊敬できる方だと思った。

一つ一つの作品をじっくりと見て回り、気が付くと三時間が経っていた。ティファニーの数多く

の作品を見ることを通して、デザインに関することを勉強していく上で良い刺激を受けた。彼は生涯をかけて芸術を貫いた。生涯を通してさまざまな芸術分野のたくさんの素晴らしい作品を世に残した。万人に認められる素晴らしい作品を残すことは、一朝一夕にはいかないと思う。彼の作品も、独自の技法を研究したりという、いろんな努力の集大成である。やはり、一芸に秀でるためには計り知れない努力が必要であるのだと思った。「美しさへの挑戦」をあきらめずに続けること。それが、今後もデザインを学んでいく上で、心がけるべき大切なことであると感じた。

また、デザインだけでなく、どんな分野でも続けていくことは大切だと思う。例えば、私は小学二年生の頃から十一年間書道を学び続けている。最初は、先生が書いた赤い字のお手本を見ながら、慣れない筆を動かした。それから続けていくうちに、文字数が増え、漢字やカタカナも学び、徐々に進歩していった。そして、この学校の書道同好会へ入り、これまでとは違う先生に教わることで新たな発見もたくさんある。その時その時の精一杯を積み重ねていけば、少しずつでも必ず進歩があると思う。今、自分の過去の作品を取り出してみると、そのことを強く感じる。

ルイス・C・ティファニー美術館の作品を見たことで、深い感動を得たと共に、大切なことを改めて考えさせられた。私は今後もいろいろなものから刺激を受けながら、視野を広げ、将来に対する志をしっかりと持って、あきらめずに努力を続けていきたい。

## 猫宴日和

### 炬燵猫みかん

皆さんは「猫」と聞くとどんなことをイメージしますか。招き猫と言う人もいます。ぐうたらと思う人もいます。どれもイメージなのでどんなイメージも正解です。私の猫のイメージはという義理がたいというイメージが一番に浮びます。「変でしょう」と思われる方もおられるでしょうがこれが私のイメージです。皆さん「化け猫」という妖怪をご存知だと思います。一般におそろしい妖怪というイメージがありますが昔話では「長生きした飼い猫が家の守り神になる」という話を祖母が私がまだ幼かったときよく話してくれました。だから私の中で「猫は義理がたい」というイメージができたのです。そして私は今まで沢山の猫や犬、亀と仲良くしてきました。しかしその度に多くの人から「あいつは頭が変だ」

「キチガイ」「馬鹿だ」と言われました。私に言われるのは平気でしたが、その度に私の仲良くしている動物たちが石を投げつけられたり、棒で叩かれたりしました。私にはそれが堪えられなかった。「なぜ、なぜ動物たちに暴力をふるう。なぜ私に向ってこない。なぜ多人数でしか私に暴力をふるえないんだ。」と毎回思いました。そして自分を責めました。そして気がついたら私は一人ぼっちになっていました。動物たちは私を怖がり、人間はあいかわらず私の悪口を言うのにいそがしかった。そして私は今まで堪えられていたものが急に堪えられなくなり気がつかない内に目から涙がでていました。もっとも涙がでていのに気がついたのは「あいつ泣いてるぜ、バカじゃねーの。」という悪口で気がついたのですが。その一件以降、私は学校に行かない問題児「引きこもり」になりました。学校に行かず、外出もせず、会話もしない。そんな生活が続いたある日、急に「自分」という体がからっぽになり、「私」という心が消えるような虚無感に襲われ、心がミキサーにかけたようにグチャグチャになりやもたてもたまらず大声で泣き叫びました。するとこんどは「自殺」という笑えない事をやろうと決心し、自分の少ない財産のこと、自殺する理由、家族へあてた言葉、辞世の句を遺書に書きつけ昼間すぎに家出しました。今の私ならその時の自分に「家族を悲しませるようなことをするな。このバカ者」と言いそうですが、この家出があったからこそ今の私があるのです。この家出で私はいくつか不思議なことが起きました。その不思議な事というのは私が自殺しようとする場所に2mぐらい離れた所からまったく同じ風体の黒い猫と三毛猫が座ってこちらをじっと見つめてくるのです。そして自殺しようとする度にフウッと毛を逆立たせて怒るので。こんなことが何度も続くので私も死ぬ気がなくなり、この猫たちは何だろうという好奇心が沸き立ち、立ちさる猫たちについて行くと、猫たちもちゃんとついて来ているかとたしかめるようにこちらを見て止まり、歩きといたぐあいなのである。しばらく行くとやぶがあり私も猫について入ると驚いたことに広場のような場所があり、そこには沢山の猫たちが居たのです。しかも不思議なことに猫たちは逃げずに逆にこちらに近づいてじゃれるのです。私は初めは変な猫たちだなあと考えていたのですが、よく見ると昔遊んでいた猫たちが沢山いたのです。そして近くでじゃれている猫に意味を求めている自分に気づき、脳裏にすべての物や生命には意味があるという言葉思いだし大声で笑いながら言いました。「全てのものに意味なんて初めからない、後で人間が都合勝手

につけただけなんだ。もし意味があるとしたら存在<sup>あ</sup>することが意味なんだ。」と。こう閃いてから意味を求める「自分」を笑いとばして腐っていた心が蘇り、世界が急に明るくなりました。閃いた後、あまりの心の軽さ、気もちよさで眠くなり猫たちの広場で寝てしまい、起きた時には寝ている数匹以外はいなくなっていました。今、改めて書いていると私の事ながら夢ではなかったのでは、と思いますが、あの後何度も猫たちの広場に行きました。そこはちゃんとあり猫たちはのびのびとしていました。場所は現実だけど、あの一件は夢かどうかはいまだにわかりませんが、現実であって欲しいと思っています。夢か現実かどうかの差は案外差がないのかもしれませんが。そして猫たちは私たち人間より案外はるかに賢いかもしれませんが。愚かな奇人の私には難しいことはわかりませんが、心から賢く愛しい動物たちの平安を望み、毎日があの一件の時のような「猫宴日和」であることを祈り、私自身またいつか再びあの時のような猫たちの宴へ招待されることを楽しみにしながら人生を送っています。

## 人とひと

### ウォルト・ディズニー

その日の夜、私は夢を見ました。別に楽しい夢でもなく、怖い夢でもありませんでした。ただ目の前に見えるのは、とても広い真っ黒な空間でした。ここはどこなのだろう、と私は思いました。しばらく辺りを見わたしたあと私は、ここは宇宙なんだと気づきました。なぜなら、まわりに小さな星や大きな星、石、岩などが浮いていたからです。私は誰とも一緒ではなく、たった一人で宇宙を眺めていたのです。宇宙はとてつもなく広い空間で、はしっこがどこなのか全く分かりませんでした。私は手に持っていた望遠鏡で必死に地球を探しました。地球はなかなか見つけることができず、少し時間がたったあと、遠くに小さい小さい地球が見えました。あったあ、と思ってホッとしていると、いつの間にか私は地球のすぐ前まで来ていました。私は地球のまわりをぐるぐると回りながら日本を探しました。地球にはたくさんの国があり、日本を探すのにもまた時間がかかりました。やっと日本を見つけて帰ろうとしたとき、目が覚めてしまいました。中二の春のことです。

私は、ふとんに入ったまましばらくもそもそしていました。そしてまた、いつも通りの生活がはじまりました。ちょうどその頃、美術の授業でポスターづくりをやっていました。テーマは「思いやり」です。私はかくことが決まらず、ずっと悩

んでいました。学校が終わり、家に帰ってからふとんに顔を突っ込んで、人と人とのつながりについて考えていました。なんで私は今の友達に出会ったのだろう。私がこの中学校に入学したから？それならもし私がちがう中学校に入学していたらどうなのだろう。きっとまた今とはちがう友達と毎日を過ごすのかな。……こんな事を考えていると、ふと夢で見た事が頭に浮んできました。宇宙はとても広いです。その上、星や惑星などが数えきれないほど多くあります。しかし、その中で人間が住むことのできるのは地球だけです。そのことが、まずすごいなって思いました。また、地球の中にも数多くの国があります。そんな大きな世界の中で、私はいろんな人と出会ってきました。きっとそれはすごい確率なんだと思います。人と出会って友達になったり、過ごしたりするのは偶然なのかもしれないけど、宇宙の中の地球、地球の中の日本、日本の中の鳥取県……たくさん人がいるなかで、その人と出会ってしゃべったりできることはとてもすごいことなんだと思いました。

私はこのことをポスターにすることに決めました。この広い宇宙の中で出会えたことはとてもすごいことなんだよ、っていうことを伝えたかったから、宇宙の絵をかきました。このことをすごいな、って思うことができたなら、人を思いやるっていう気持ちにもつながるのではないのでしょうか。このポスターは全国で特選を授賞することができました。多くの人が共感してくれたんだと思うと、とてもうれしかったです。

今でもたまに、いろんな事を考えます。私は小二の春に埼玉県から鳥取県に転校してきました。だから、もし転校してこなかったら、今一緒に過ごしている友達や先生とは話すことも顔を合せることもなかったのかな、とか、ちがう高校に行っていたら今、何しているんだろう、とかいろいろです。たぶん誰でも一回ぐらいは考えたことがあるのではないですか。そんなときは中二の春に見た夢がいつも頭に浮んできます。

今、私は米子高専にいます。私は中三のとき、自分がどの高校に行くのかとても悩みました。たぶんそういう人は少なくなかったんじゃないかな、って思います。でも、悩んだすえ、高専に行くことに決めました。今のクラスでも、第一志望で来た人もいれば、県立のすべり止めで来た人もいるだろうし、ただなんとなく来た人も、もしかしたらいるのかもしれませんが。でも、それぞれの理由で一つに集まった集団の出会いはとてもかけがえのないものだと思います。だから今は今の仲間と生活を大切にしたいです。私はこのことを忘れずにこれからも生きていきたいです。

## 新着図書紹介

### ◇一般科目 推薦42冊

はじめての文学 村上春樹/村上春樹  
 「風をつむぐ少年」/ポール・フライシュマン  
 一億百万光年先に住むウサギ/那須田淳  
 天気 of 不思議/森田正光  
 「戦争で死んだ兵士のこと」/小泉吉宏  
 Presents/角田光代  
 立体で見たい地球の必見スポット/ニュートンプレス  
 倫理力を鍛える/加藤尚武 ……………ほか

### ◇電気情報工学科 推薦26冊

[改訂第4版] LaTeX2ε美文書作成入門/奥村晴彦  
 物理数学の直感的方法/長沼伸一郎  
 それは足からはじまった—モビリティの科学/  
 東京大学交通ラボ  
 基礎電子回路入門/村岡輝雄  
 CMOSアナログ回路入門/谷口研二  
 ソフトコンピューティングと時系列解析/渡辺則生  
 工学基礎 ラプラス変換とz変換/原島 博  
 定本 OPアンプ回路の設計/岡村 勉 ……………ほか

### ◇電子制御工学科 推薦18冊

ロボットの運動学/高野政春  
 デジタル制御入門/高木章二  
 デジタル信号処理/萩原将文  
 メカトロニクスのための電子回路基礎/西堀賢司  
 エンベデッド技術/日本システムハウス協  
 電磁気学を学ぶためのベクトル解析/関根松夫  
 マイコン入門講座/大須賀 威彦  
 入門 独立成分分析/村田 昇 ……………ほか

### ◇物質工学科 推薦13冊

生化学・分子生物学演習/猪飼 篤  
 知っておきたい有機反応100/日本薬学会  
 新版 本当にふえるPCR/中山広樹  
 人名反応に学ぶ有機合成戦略/富岡 清(訳)  
 天然物の全合成/竜田邦明  
 Essential細胞生物学 /Bruce Alberts 他(著)  
 Molecular Biology of the Cell/Bruce Alberts  
 March's Advanced Organic Chemistry/  
 Michael B. Smith ……………ほか

### ◇建築学科 推薦18冊

広さ長さ高さの構造デザイン/坪井善昭  
 崩壊について/佐藤 彰  
 巨匠たちのディテール(Vol.1・2)/  
 エドワード・R. フォード  
 英語で学ぶ構造力学 /勝山 邦久  
 ビジュアルハンドブック必携建築資料/柳原 正人  
 建築のすべてがわかる本/藤谷陽悦  
 鋼構造設計規準/日本建築学会  
 写真でわかる建築施工/掛川 純行 ……………ほか

## ブックハンティング書籍 貸出ランキング

2007.5.1 ~ 2007.9.30 までの統計

貸出回数	書名	著者	出版社
11	刀語り 第1話-第3話	西尾 維新	講談社
10	図書館戦争	有川 浩	角川書店
9	私の王子様：リアとトレイズ 上・下	時雨沢恵一	メディアワークス
8	夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦	角川書店
8	図書館危機	有川 浩	メディアワークス
7	海の底	有川 浩	メディアワークス
7	プログラマの完全常識： 開発者が知っておくべきプロの知恵	矢沢 久雄	技術評論社
7	The manzai 1巻-3巻	あさのあつこ	ジャイブ
7	シゴフミ：Stories of Last Letter	湯沢 友楼	メディアワークス
7	DDD：Decoration Disorder Disconnection	奈須きのこ	講談社
7	陰日向に咲く	劇団ひとり	幻冬舎
6	三月は深き紅の淵を	恩田 陸	講談社
6	空の中	有川 浩	メディアワークス
6	図書館内乱	有川 浩	メディアワークス
6	心理分析ができる本	齋藤 勇	三笠書房

## 図書館のパソコンをしよう

図書館は、閉館時間の15分前までパソコンが利用できます。(平日ならば、午後7時45分まで、土曜日ならば午後2時45分まで利用できます。)

各種情報検索、文書作成などに利用してください。

利用を希望する方は、受付カウンターまで学生証を添えて申し出てください。

なお、利用には、情報教育施設で利用しているアカウントとパスワード(情報などの授業で利用しているもの)が必要です。

第1端末室・第2端末室・インターネットルームでは、教科担当教員の立会い・監督があれば、17時00分～22時00分の利用が可能です。

